



人と環境をこの手で守る。



採用情報はここから

<https://www.nra.go.jp/nra/employ/index.html>



人と環境をこの手で守る。

いま原子力のあり方には、様々な意見があります。

大切なのは、周囲の状況に左右されず、最新の科学的・技術的知見に基づき規制が行われることです。

原子力の安全を研究し、規制基準を定め、対策を講じる。

私たちはこの手で、世の中の安全を守り続けていきます。

Contents

03 原子力規制委員会とは	14 キャリアパス	24 新入職員対談
04 職員紹介	14 総合職・技術系	26 数字で見る 原子力規制委員会
04 原子力規制部	14 一般職・技術系	28 組織図
06 放射線防護グループ	16 一般職・事務系	29 地方の体制
08 技術基盤グループ	16 研究職	30 採用情報
10 長官官房	18 人材育成・研修制度	31 委員長メッセージ
12 出向先紹介	20 ワークライフバランス	
	22 職員のとある一日	

原子力規制委員会とは

What's Nuclear Regulation Authority?

組織理念

原子力規制委員会は、2011年3月11日に発生した東京電力福島原子力発電所事故の教訓に学び、二度とこのような事故を起こさないために、そして、我が国の原子力規制組織に対する国内外の信頼回復を図り、国民の安全を最優先に、原子力の安全管理を立て直し、真の安全文化を確立すべく、設置された。

原子力にかかわる者はすべからず高い倫理観を持ち、常に世界最高水準の安全を目指さなければならない。

我々は、これを自覚し、たゆまず努力することを誓う。

使命

原子力に対する確かな規制を通じて、人と環境を守ることが原子力規制委員会の使命である。

活動原則

原子力規制委員会は、事務局である原子力規制庁とともに、その使命を果たすため、以下の原則に沿って、職務を遂行する。



原子力事業者からの申請を審査し、規制基準への適合性を確認。
現場での検査活動を通じて、原子力事業者の保安活動を監視。



その調査・分析は
将来の安全のためにある。

私の業務は、東京電力福島第一原子力発電所で起きた事故を調査・分析して新たな規制に活かすことです。具体的には、事故が起きた原子炉のある建物の中に入り、構造物の表面に付着した放射性物質を採取し、その成分や建物内での分布の分析などを行っています。事故現場を検証し、事故当時の情報を精査して疑問点を見つけ、その疑問の解消が将来の原子炉の安全性向上に結びつけられるかを常に考えながら仕事をしています。

総合職(院卒・工学) 平成30年度入庁
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
工学研究科 環境・エネルギー工学専攻(修士)

岩野 圭介

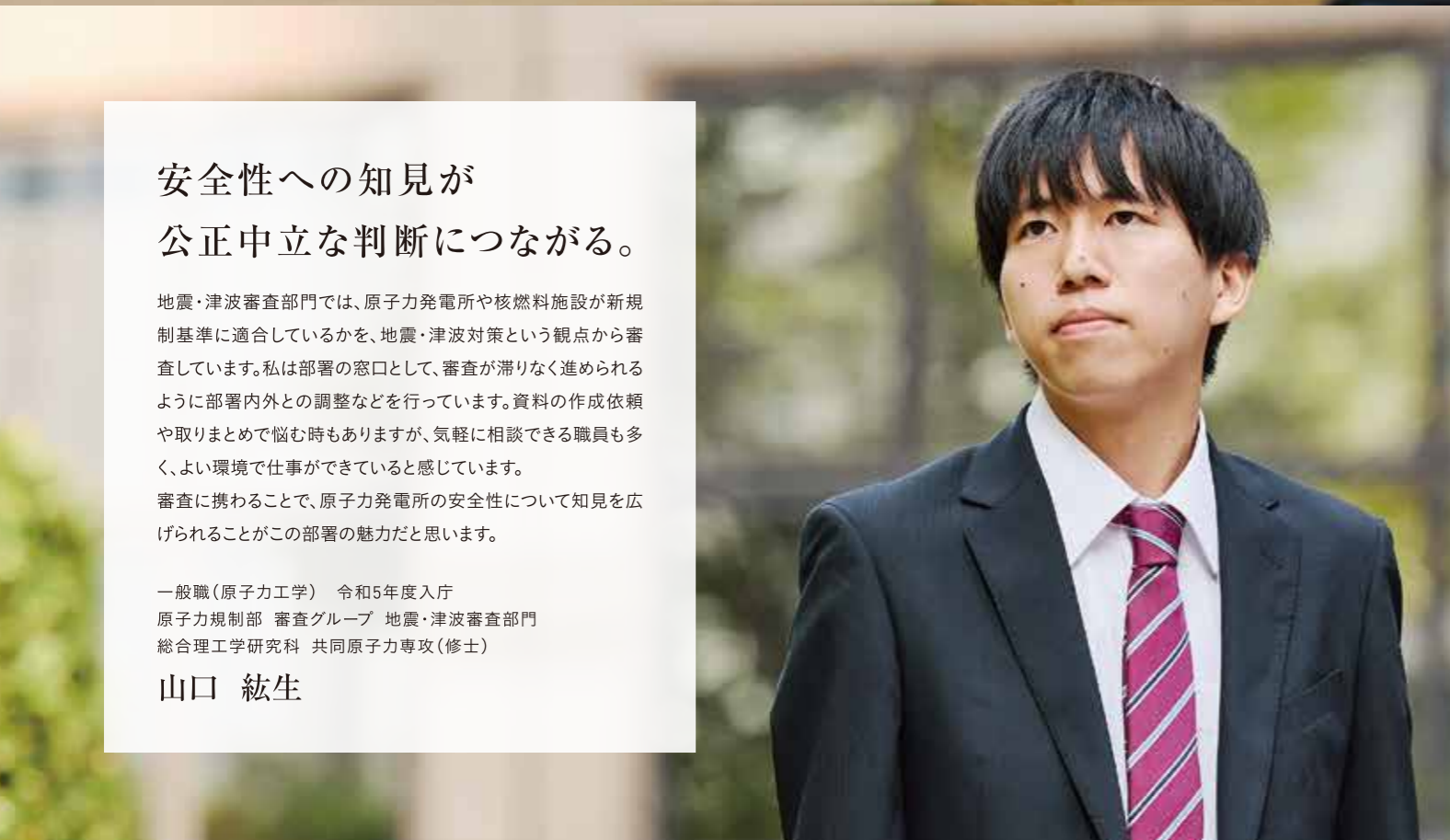


知識ゼロからの成長は
上司や先輩あつてのこと。

専門検査部門は原子力規制検査の中でも、専門的な事項について検査をしています。
私の主な仕事は、業務を円滑に行えるように部署の窓口として部署内外との調整をすることです。日々の仕事は物品の発注や会議の準備など、多岐にわたります。原子力の知識が何もありませんでしたが、研修に自ら参加をして、周りの上司や先輩に質問し、日々知識を得ながら常に新しい情報に目を向けて業務に励んでいます。

一般職(高卒・技術) 令和5年度入庁
原子力規制部 検査グループ 専門検査部門
材料技術科

廣野 陽耶



安全性への知見が
公正中立な判断につながる。

地震・津波審査部門では、原子力発電所や核燃料施設が新規規制基準に適合しているかを、地震・津波対策という観点から審査しています。私は部署の窓口として、審査が滞りなく進められるように部署内外との調整などを行っています。資料の作成依頼や取りまとめで悩む時もありますが、気軽に相談できる職員も多く、よい環境で仕事ができていると感じています。
審査に携わることで、原子力発電所の安全性について知見を広げられることがこの部署の魅力だと思います。

一般職(原子力工学) 令和5年度入庁
原子力規制部 審査グループ 地震・津波審査部門
総合理工学研究科 共同原子力専攻(修士)

山口 紘生



原子力施設に精通する
プロフェッショナルを目指して。

原子力事業者が原子炉を長期間運転しようとする際に実施する必要がある技術評価や、原子炉の運転期間を延長しようとする際に必要な申請の内容が、適切なものであるかを審査しています。
面談や会合など事業者と直接やりとりをする機会が多く、原子力施設についての詳しい情報に触れることができます。経験豊富な先輩方が周囲に多くいるので、積極的にコミュニケーションを取って知識を増やせるよう心がけています。

一般職(大卒・化学) 令和4年度入庁
原子力規制部 審査グループ 実用炉審査部門
理学部 化学科

今田 彩香

被ばくによる影響から人体を守るための政策立案・実施。
テロ、災害、兵器利用等に関する規制、対策、監視等の実施。

外部に分かりやすく伝える 難しさと面白さ。

私は、原子力災害対策に関する指針などの継続的な改善のため、課題の抽出と検討を行っています。この仕事には、指針の解釈や考え方に関する問い合わせ対応の際、その考え方を理解してもらえるよう伝えることの難しさがあります。原子力災害対策の制度設計を整え、関係省庁や地方公共団体などに分かりやすく伝えられるよう努めていきたいです。また、原子力規制庁独自の研修が充実しているだけでなく、経験豊富な先輩職員から原子力の知識を学ぶ機会も多く、周囲に助けられながら業務に取り組んでいます。

一般職(大卒・化学) 令和4年度入庁
放射線防護グループ 放射線防護企画課
水産学部 資源機能化学科

山崎 裕太

法を守る。だから、 今日も自分の目で確かめる。

私は放射線検査官として全国の放射性同位元素や放射線発生装置を取り扱う病院や工場などに行き、法令で定められている規制事項が遵守されているかを確認する立入検査業務を行っています。実際に自分の目で確認し、事業者へ質問したり、指摘や指導を行ったりと、直接事業者とやりとりを行う機会が多く「検査を円滑に進めるためにはどうしたらよいか」「どう相手に伝えたら正確に伝わるか」を常に工夫し、やりがいを持って仕事に励んでいます。

一般職(大卒・農学) 平成30年度入庁
放射線防護グループ 放射線規制部門
理学部 生物分子科学科

鈴木 美希

気軽に質問できる 風通しのよさがあるから。

私は現在、日々の放射線をモニタリングする部署に所属しており、この部署では全国の実環境放射線量や原子力施設沖合の海水などの放射能濃度を調査し、原子力施設からの影響の有無を把握する業務などを行っています。

その中でも私の業務は、部署の窓口として部署内外の調整などを行うことです。上司の方々とのコミュニケーションが取りやすいので、不安を抱えることなく日々の業務に取り組むことができます。

一般職(原子力工学) 令和5年度入庁
放射線防護グループ 監視情報課 放射線環境対策室
工学部 原子力安全工学科

上野 奈緒子

核物質の兵器転用に 常に目を光らせる。

原子力発電で利用しているウランなどの核物質は、発電に利用できる一方で、核兵器にも用いることができます。保障措置室は、国内の核物質が核兵器などに転用されないことを確認する業務を行っており、私はそこで、適切な遂行のための企画・調整を主に行っています。

国際原子力機関(IAEA)へのプレゼンや国会議員への説明などのより挑戦的な業務を上司のサポートの下で行い、日々成長を感じながら仕事をしています。

一般職(大卒・行政) 令和2年度入庁
放射線防護グループ 放射線防護企画課 保障措置室
理学部 物理学科

山口 大喜

原子力に関わる安全研究を行い、新知見を規制基準に反映。
蓄積した知見に基づき、原子力規制部が行う審査等の支援を実施。



自分の知識・研究が
将来の原子力に役立つ喜び。

私は原子力発電所で事故が起きた場合の放射線影響の評価（従業員や周辺住民の被ばく線量評価やリスク評価）に関する研究をしています。
審査や規制基準の作成にも関わるため、規制の現場を見据えつつ将来の規制に必要な研究が何かを考えて実行できることは、原子力規制委員会で研究職として働くことの大きな魅力のひとつです。自らの知識や研究成果が実際に役立つ喜びは何ものにも代えがたいです。

研究職 選考採用(原子力安全基盤機構採用)
技術基盤グループ シビアアクシデント研究部門
工学系研究科 原子力国際専攻(博士)

鈴木 ちひろ

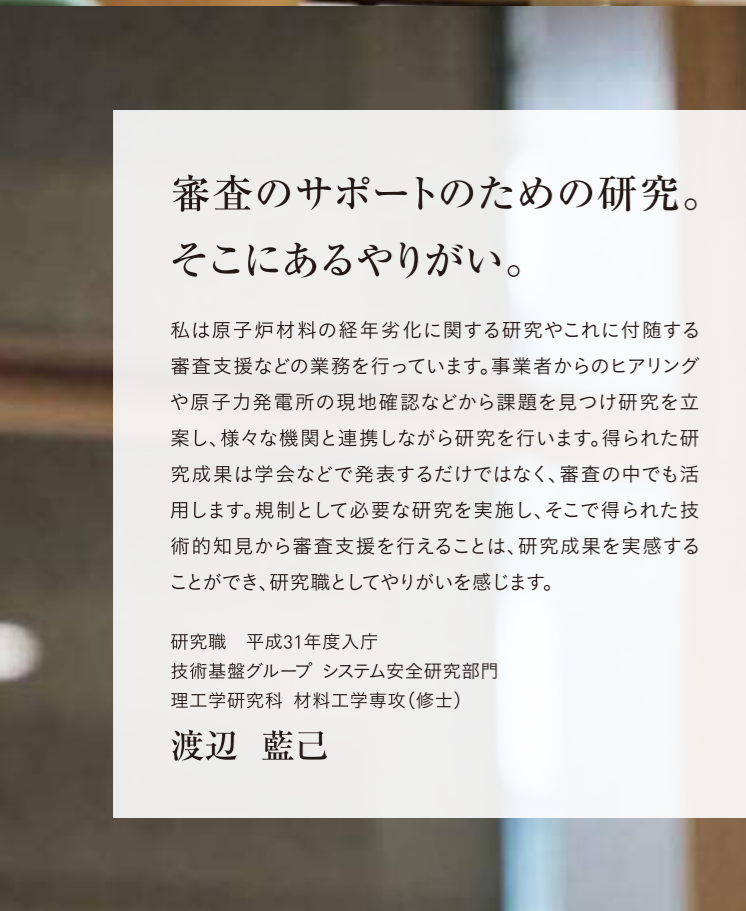


若手の意見にも
耳を傾ける風土が心地よい。

原子力施設などから発生する廃棄物に含まれる放射性核種の定量評価技術に関する研究を行っています。
成果の活用先を見据えての研究を実施することができ、意欲向上につながっています。また、自身の研究成果が規制に活用されるまでの過程を論理的に説明するため、関係職員と議論を重ねるなど、勉強を続けています。職員間のコミュニケーションは活発で、若手でも意見を述べたり質問したりしやすい雰囲気があり、働きやすいと感じます。

研究職 令和3年度入庁
技術基盤グループ 放射線・廃棄物研究部門
理学系研究科 化学専攻(修士)

山本 康太



審査のサポートのための研究。
そこにあるやりがい。

私は原子炉材料の経年劣化に関する研究やこれに付随する審査支援などの業務を行っています。事業者からのヒアリングや原子力発電所の現地確認などから課題を見つけ研究を立案し、様々な機関と連携しながら研究を行います。得られた研究成果は学会などで発表するだけでなく、審査の中でも活用します。規制として必要な研究を実施し、そこで得られた技術的知見から審査支援を行えることは、研究成果を実感することができます。研究職としてやりがいを感じます。

研究職 平成31年度入庁
技術基盤グループ システム安全研究部門
理工学研究科 材料工学専攻(修士)

渡辺 藍己

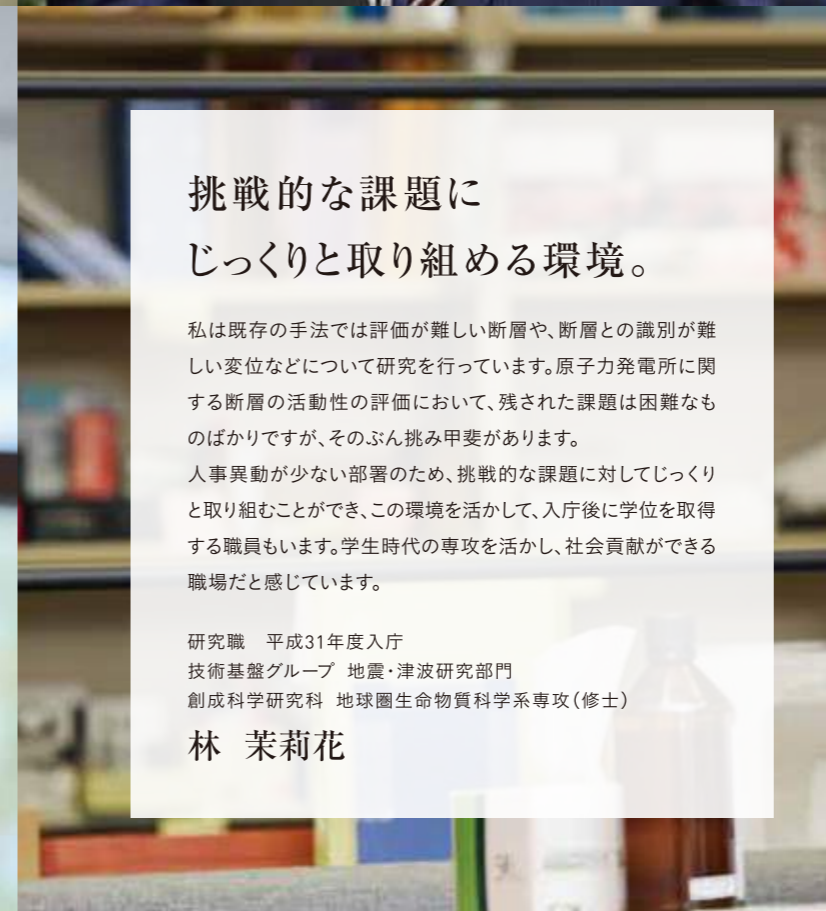


挑戦的な課題に
じっくりと取り組める環境。

私は既存の手法では評価が難しい断層や、断層との識別が難しい変位などについて研究を行っています。原子力発電所に関する断層の活動性の評価において、残された課題は困難なものばかりですが、そのぶん挑み甲斐があります。
人事異動が少ない部署のため、挑戦的な課題に対してじっくりと取り組むことができ、この環境を活かして、入庁後に学位を取得する職員もいます。学生時代の専攻を活かし、社会貢献ができる職場だと感じています。

研究職 平成31年度入庁
技術基盤グループ 地震・津波研究部門
創成科学研究科 地球圏生命物質科学系専攻(修士)

林 茉莉花



政策立案や人員・予算の確保、国際機関を含む他機関との調整、広報活動等、様々な角度から原子力規制を支える業務の実施。原子力災害等が発生した際の緊急時対応。



新たな分野にチャレンジ できる環境は、魅力。

私の主な業務は、所管法令などの改正案について、実現したい施策が法令上適切に書かれているか、上位に来る法令から逸脱していないかなどの審査を行うことです。理系出身で法令に触れる機会がほとんどなかったため、改正案や様々な法令などにらめっこする毎日です。とても大変ですが、学生時代のバックグラウンドによらず新たな分野にチャレンジできる環境がある、それが原子力規制委員会の魅力だと感じています。

総合職(大卒・工学) 平成31年度入庁
長官官房 総務課 法令審査室
基幹理工学部 機械科学・航空学科

田中 敦也

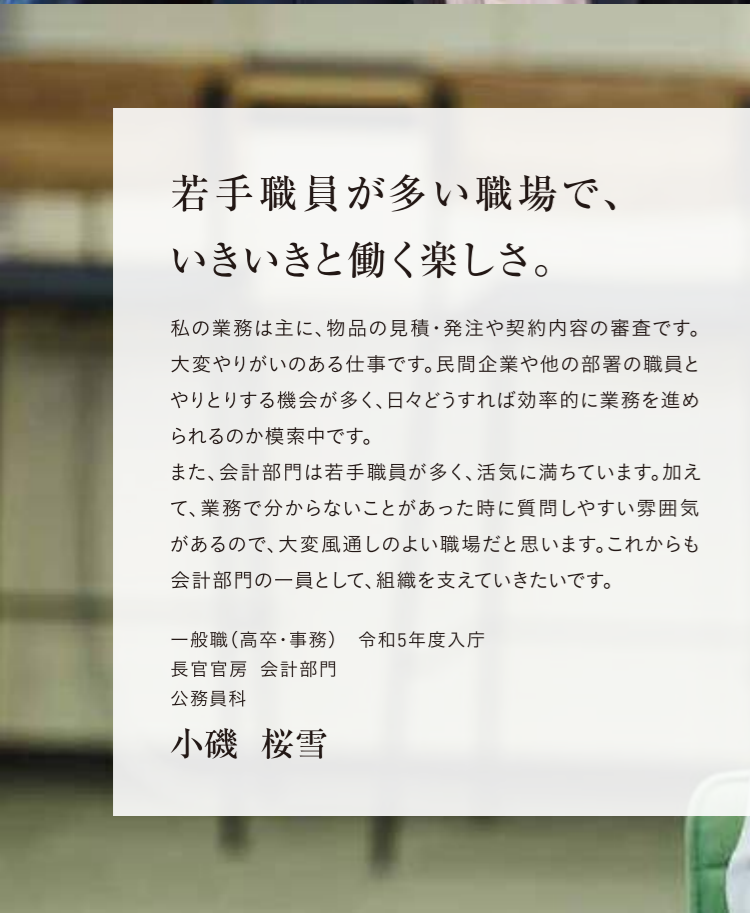


規制委員会と国会議員を つなぐ重要な役割を担う。

私は国会議員とのやりとりに関する業務を担当しています。議員の疑問点や問題意識を汲み取り、庁内の各部署の業務内容と照合し、誰に説明してもらうのがベストかを考え、担当を決めるといったことも業務のひとつです。難しいですが、うまくはまった時は達成感があります。国会会期中は急を要する対応が発生するため緊張感がありますが、閉会している期間は比較的業務量が少ないため休暇を取りやすいです。

一般職(原子力工学) 令和3年度入庁
長官官房 総務課
理学研究科 化学専攻(修士)

上田 大生



若手職員が多い職場で、 いきいきと働く楽しさ。

私の業務は主に、物品の見積・発注や契約内容の審査です。大変やりがいのある仕事です。民間企業や他の部署の職員とやりとりする機会が多く、日々どうすれば効率的に業務を進められるのか模索中です。また、会計部門は若手職員が多く、活気に満ちています。加えて、業務で分からないことがあった時に質問しやすい雰囲気があるので、大変風通しのよい職場だと思います。これから会計部門の一員として、組織を支えていきたいです。

一般職(高卒・事務) 令和5年度入庁
長官官房 会計部門
公務員科

小磯 桜雪

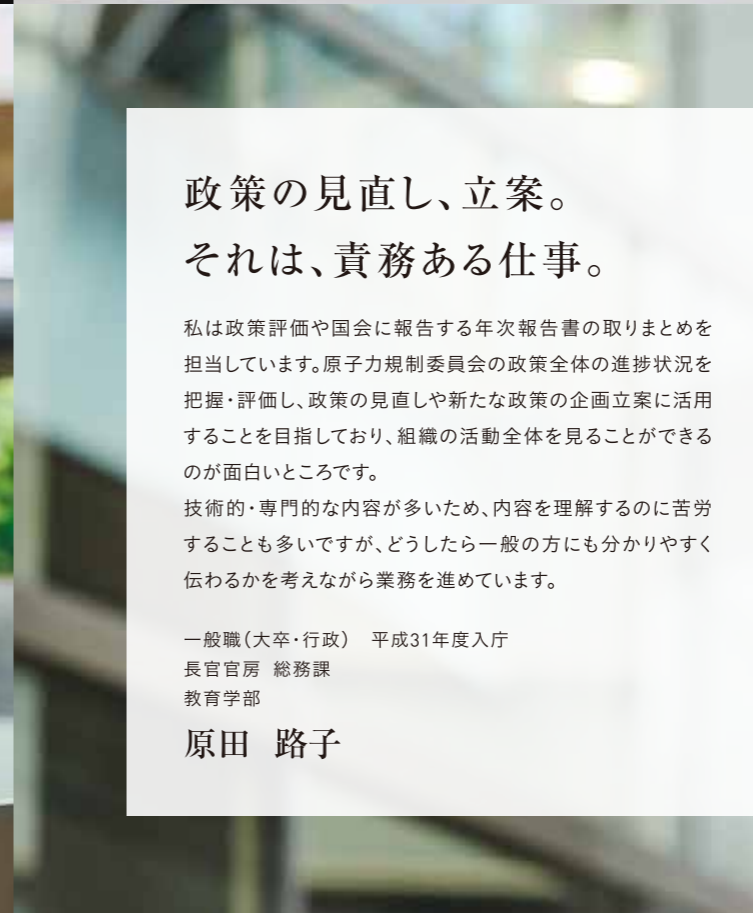


政策の見直し、立案。 それは、責務ある仕事。

私は政策評価や国会に報告する年次報告書の取りまとめを担当しています。原子力規制委員会の政策全体の進捗状況を把握・評価し、政策の見直しや新たな政策の企画立案に活用することを目指しており、組織の活動全体を見ることができるのが面白いところです。技術的・専門的な内容が多いため、内容を理解するのに苦労することも多いですが、どうしたら一般の方にも分かりやすく伝わるかを考えながら業務を進めています。

一般職(大卒・行政) 平成31年度入庁
長官官房 総務課
教育学部

原田 路子



出向先紹介

国内外の各省庁や国際機関などその出向先は様々。
多数の職員が庁外で活躍しています。



大臣を支える、 つまりは国を支える。

内閣府特命担当大臣(原子力防災担当)秘書官

現在、私は原子力防災を担当する大臣の秘書官を務めています。大臣が、適切な判断を迅速にできる環境を作ることが主な仕事です。官邸や出張先などにも常に同行し、大臣をお支えています。審査官や検査官とはまた違った、行政官としての貴重な経験や技術を得ることができています。

II種(機械) 平成18年度 経済産業省入省
理工学研究科 精密機械工学専攻(修士)

松井 一記



※写真右は大臣、左が筆者

数年、十数年先の 日本の原子力規制のために フィードバックを続ける。

在アメリカ合衆国日本国大使館 一等書記官

米国ではカーボンニュートラルを達成するために様々な先進原子炉や核融合の開発が盛んに行われており、それらに対応するため、米国原子力規制委員会(NRC)が新たな規制づくりに取り組んでいます。これらは数年後、十数年後の日本にとって非常に参考になるものであり、日本の規制への積極的なフィードバックを心がけています。

II種(機械) 平成17年度 経済産業省入省
工学部 物理工学科

角谷 愉貴



※写真右が筆者

知見を広げるなら、 世界規模で。

Consultant Section of Radiation Safety and Monitoring

私は国際機関で、特に労働者に対する放射線の防護に関する部署で働いています。国際機関では、異なる文化やバックグラウンドを持つ人々と調整しながら仕事を進める必要があるため、語学力の向上のみならず、自身の知見を広げることができ、貴重な経験を積むことができています。

一般職(大卒・物理) 令和2年度入庁
健康福祉学部 放射線学科

高田 桂介



福島環境再生に 取り組む。

環境省 環境再生・資源循環局 環境再生事業担当参事官室

福島県内の除染で生じた除去土壌などについて、法律で、国は2045年3月までに「福島県外で最終処分を完了するために必要な措置を講ずること」とされています。私は現在、この県外最終処分の実現に向け、検討会の運営や国会対応など、様々な業務を行っています。

総合職(院卒・工学) 令和3年度入庁
工学研究科 環境・エネルギー工学専攻(修士)

西村 諒成



総合職・技術系

STEP 01



大坪 拓夢
総合職(院卒・化学 薬学) 令和5年度入庁
原子力規制部 審査グループ
実用炉審査部門 係員
工学研究科 応用化学専攻(博士)

新入職員

1年目でありながら多くの経験を得られた。

実用炉審査部門は主に原子力発電所に関する審査を行う部署です。その部署で私は総括班の一員として働いています。総括班の役割は、部署を代表して庁内外の窓口になることと、審査官が審査に専念できるような環境を整えることと考えています。1年目ながら、幅広い仕事を経験でき充実した日々を過ごしています。



STEP 02



森 美穂子
総合職(大卒・農業農村工学) 平成27年度入庁
原子力規制部 東京電力福島第一
原子力発電所事故対策室 室長補佐
農学部 生物・環境工学専修

若手職員

前例がないからこそスキルは伸びる。

私の業務は東京電力福島第一原子力発電所の設備などの審査です。福島の復興に不可欠な廃炉の進捗に直接関わる非常に重要な仕事であることに加え、前例のない案件ばかりで自身の技術面を伸ばせるよい機会であると捉えています。また、審査班長として、班員の力を借りながら審査を進め、説明責任を果たしていきたいです。



STEP 03



中桐 裕子
I種(理工II) 平成15年度 経済産業省入省
長官官房 総務課 広報室 室長
理工学研究科
開放環境科学専攻(修士)

管理職

規制委員会の想いを社会に伝える。

ホームページ約700万アクセス、会合や記者会見の実施・配信約460回、委員による現地調査のメディア公開約25件、コールセンター約1500受電。広報が1年間で関わる社会との“接点”は多様にあります。また、原子力規制委員会の「独立した科学的意見決定」のPR活動にも従事はありません。日々改善していける面白さがこの仕事にはあります。



STEP 04



渡邊 桂一
I種(化学) 平成11年度 経済産業省入省
原子力規制部 審査グループ
実用炉審査部門 安全規制管理官
工学部 化学生命工学科

管理職

高い専門性と多彩な視点で確かな審査を。

私の部署では原子力発電所の安全確保のための計画が基準を満たしているか、合理的で実現可能なものであるかを審査しています。高度な専門性が必要な難しい仕事ではありますが、仲間と知見を補い合い「知恵」を出し合うことが肝で、一見関係のない他分野からの気づきも多いです。原子力は総合力。多彩な発想を持つ若いみなさんの参戦をお待ちしています。



一般職・技術系

STEP 01



鈴木 寧々
一般職(大卒・化学) 令和5年度入庁
原子力規制部 検査グループ
検査監督総括課 係員
基礎理工学研究科
生命システム情報専攻(修士)

新入職員

グローバルな経験ができる魅力。

検査グループの検査監督総括課で部署の窓口業務に携わっています。世間からの注目度が高い会合の調整などでは責任を感じますが、円滑な遂行の一助となれた時にやりがいを感じます。また、海外の検査制度などを実際に米国などで調査する検査官のお話を聞く機会も多く、様々な経験や考えを学ぶことができる環境がとても魅力的です。



STEP 02



藤川 和志
一般職(大卒・物理) 平成28年度入庁
原子力規制部 審査グループ
地震・津波審査部門 安全審査官
理学系研究科 物理学専攻(修士)

若手職員

チームプレーとしての審査業務。

地震・津波といった自然ハザードに関する審査を担当しています。専門性が高く、知らない内容を取り扱うことも多いですが、先輩審査官からいろいろと指導を受けながら、日々業務に取り組んでいます。審査の方向性を決めることが困難な場合も多々ありますが、チーム全員でよく話し合いながら、課題解決に努めています。



STEP 03



大辻 絢子
II種(建築) 平成16年度 文部科学省入省
原子力規制部
東京電力福島第一原子力発電所
事故対策室 室長補佐
工学研究科 生活空間学専攻(修士)

中堅職員

安全に廃炉を進めるという挑戦。

前例のない事故を経験した東京電力福島第一原子力発電所の廃炉を安全に進めるという難しい問題に、規制側としてチャレンジするのはやりがいがあり、使命感も感じます。最近大きく話題になったALPS処理水の海洋放出に関しては、国際的な説明もたくさん行ってきました。技術的な能力、そしてそれを分かりやすい形で説明する能力が重要だと感じる日々です。



STEP 04



竹内 淳
II種(電気) 平成5年度 経済産業省入省
長官官房 総務課
政策立案参事官
電気通信学部 電子工学科

管理職

継続的改善で働きやすい環境づくりを。

原子力規制委員会では組織理念のもと計画を立てて仕事を行い、その達成状況を評価して必要があれば見直していくという仕組みにより継続的改善を進めています。私はこの仕組みを通じた仕事の評価のあり方や、職員の方々が働きやすい職場にするためにはどうしたらいいかといったことを日々考えながら仕事をしています。



一般職・事務系

STEP 01



中村 悠里
一般職(大卒・行政)
令和5年度入庁
長官官房 人事課 係員
農学部 地域生態システム学科

新入職員

学びに満ちた毎日。

人事課で職員の給与に関する仕事をしており、給与関連の計算や各種調査対応が主な業務です。厳格さが重要な給与関連業務において学ぶべきことはとても多く、資料を読んだり、時には先輩や上司を質問攻めにしたりがながら業務に取り組んでいます。経験豊富な先輩方を目標に精進する日々は、大変ながらも充実しています。



STEP 02



大橋 美遥
一般職(大卒・行政)
平成30年度入庁
長官官房 会計部門 審査二係長
人間社会学域地域創造学類

若手職員

緊張感の中にも活気ある若い職場。

原子力規制委員会の予算を会計法令に基づき適切に執行するために、契約時・支払時の書類や手続きを審査し、時には財務省と協議を行う業務にあたっています。緊張感のある仕事ですが、行き詰まった時には周りに助言をもらい、学びと経験を積みながら、日々意欲的に取り組んでいます。若手も多く活気のある職場です。



STEP 03



世良田 鎮
選考採用(II種相当)
平成28年度入庁
原子力規制部 審査グループ
地震・津波審査部門 管理官補佐
教育学部 スポーツ健康科学学科

中堅職員

妥協なき審査をサポートする存在。

地震・津波審査部門の職員の大半は技術系の職員です。審査官は東京電力福島第一原子力発電所事故のような事故を二度と起こさないために、日々悩みながら緊張感を持って慎重な審査を行っています。審査官が妥協なく審査を行えるよう事務官である私が支えていく、そんな想いで業務に取り組んでおり、そこには大きなやりがいがあります。



STEP 04



足立 敏通
選考採用(原子力安全基盤機構採用)
長官官房 サイバーセキュリティ
情報化参事官、公文書監理官、
総務課 情報システム室長
理学部 地学科

管理職

情報システムから業務の効率化を図る。

業務遂行のために欠かせない各種情報システムの整備・運用と、職員が作成する行政文書の管理を担当しています。クラウドの活用で在宅でも不自由なく業務ができ、ワークライフバランスの向上に寄与できていると感じています。管理されている情報にAIを活用することで検索性を高め、さらなる業務の効率化と一緒に進めていきたいと思います。



研究職

STEP 01



梁田 勇太
研究職 令和5年度入庁
技術基盤グループ
シビアアクセシブル研究部門
技術研究調査官
総合理工学研究科 共同原子力専攻(修士)

新入職員

解決の積み重ねに成長を感じる。

私は現在、地震時の原子力発電所のリスク評価および原子力安全上必要となる人間による操作の信頼性評価を担当しています。分からないことをひとつずつクリアしていくところが、研究職としてのやりがいのひとつです。



STEP 02



佐藤 由子
研究職 選考採用(原子力安全基盤機構採用)
技術基盤グループ
放射線・廃棄物研究部門
副主任技術研究調査官
工学研究科 量子エネルギー工学専攻(修士)

若手職員

研究成果がすぐに規制に活用される面白さ。

学生時代の専門を活かし、低レベル放射性廃棄物の処分に関する研究を行っています。規制の裏づけとなる科学的・技術的な情報を得るために、どのような解析計算や試験を行うべきか試行錯誤する日々ですが、研究成果が規制に活用されるスピード感を肌で感じられるのは、原子力規制委員会の研究職ならではの魅力だと思っています。



STEP 03



石津 朋子
研究職 選考採用(原子力安全基盤機構採用)
技術基盤グループ
システム安全研究部門
上席技術研究調査官
理工学研究科 原子核工学専攻(博士)

中堅職員

立場の壁を超えての議論にやりがい。

革新炉と呼ばれるナトリウム冷却高速炉や高温ガス炉について、事故を想定した解析や炉心損傷事故の評価などの研究を行っています。限られたメンバーで広範囲の技術分野をカバーしなければなりません。国や機関・年齢・性別を超えて専門家と技術的課題を議論し、取り組んでいくことはやりがいがあります。ぜひ一緒に働きましょう。



STEP 04



萩沼 真之
研究職 選考採用(原子力安全基盤機構採用)
技術基盤グループ
放射線・廃棄物研究部門
安全技術管理官
工学研究科 地域環境システム専攻(博士)

管理職

高い専門性が集結し、安全は生まれる。

研究職は職員自ら実施する研究などを通じて最新の科学的・技術的知見を収集し、規制基準の整備や審査の際の判断に反映させていく仕事です。原子力工学だけでなく、多様なバックグラウンドを持つ先輩が活躍しています。みなさんも専門性を活かし、原子力の安全性向上という目標に向けて一緒に取り組んでいきましょう。



働く職員の成長を支援する

原子力規制委員会には、人材育成や研修を担当する機関として「原子力安全人材育成センター」があります。業務に必要な知識や技能を習得するための様々な研修を数多く用意しています。

- 専門能力向上のための様々な研修を整備
- 原子力の基礎知識から高度な知識までを継続的に習得可能
- 海外規制機関への研修派遣や国内外の大学院への留学制度

階層別研修

- 行政基礎研修
- 原子力規制事務所、原子力施設での現場研修
- 各階層(係長級、課長補佐級等)対応研修

基本知識習得研修

- 原子力安全規制法体系、原子力施設の仕組み等の職員共通の基礎知識習得研修

専門性向上研修

- 原子力施設の主要機器の模型や検査装置の模擬設備を用いた研修
- 原子力発電所の重大事故対策、プラント挙動等の習得のためのシミュレータ研修

国際性向上研修

- 原子力に関する語学力やミーティングスキル向上のための研修
- 原子力関係の海外規制機関、大学等が開催するセミナーや研修への派遣

eラーニング(全職員対象)

- 全職員が知っておくべき、公務員倫理、ワークライフバランス等に係るeラーニング

原子力規制委員会の研修施設

原子力安全研修所



模擬設備を用いた実技研修



施設・設備のカットモデル(写真は原子力発電所)

研修用プラントシミュレータ



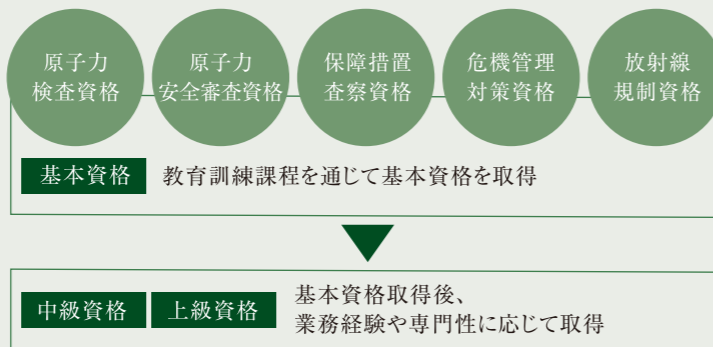
発電所の運転シミュレーション研修



新型表示盤を模擬した設備

任用資格制度

高度かつ専門的な知識と経験が求められる職へ就くために設けられた制度です。基本資格を取得するための新規採用職員向けの教育訓練課程には、業務を離れて研修だけに集中して受講する「集中型コース」と業務と並行して受講する「分散型コース」があります。基本資格取得後は業務に従事しながら知識や経験を重ね、中級～上級の資格を目指します。



研修制度をフル活用し、仕事に活かす、成長につなげる。



中村 祐輝

一般職(大卒・行政) 平成29年度入庁 長官官房 会計部門 主計係長
経済学部 経済学科

入庁後、長官官房会計部門に所属し、部門の窓口業務に従事。翌年同部門の給与班に異動する。その後、環境省大臣官房会計課に出向し、令和3年に再び長官官房会計部門へ。令和5年から現職。

原子力の基礎を学べば、業務への理解が深まる。

CASE01 教育訓練課程(分散型コース)を受講

原子力規制委員会では、日々の業務で様々な原子力の専門用語を目にします。私は学生時代に、原子力分野について勉強したことがありませんでしたが、多くの用語に触れていくうちに原子力分野について興味が湧き、教育訓練課程の分散型コースを受講することにしました。

分散型コースは、通常業務と並行しながら5~10年かけて少しずつカリキュラムを受講するもので、原子炉工学や核燃料工学、各種法令の知識など、その内容は多種多様です。また、自身で受講計画を立てることができ、オンライン研修も充実しているため、閑散期や業務の隙間時間に受講できるのが嬉しいです。これまで触れてこなかった分野のため、基礎知識から学ぶ必要があり大変ですが、日々の業務では実際に見る機会のない装置の実物を確認できるなど、新しい学びが多くとても有意義な研修となっています。

私は会計業務に携わる部署に配属されており、日々各課から提出される様々な書類に目を通します。本研修を通じて、その書類に記載されている専門用語の意味や背景が分かるようになり、各課が実施している業務について理解が深まりました。今後はバックオフィス業務を通じて原子力規制委員会を支えつつ、本研修で学んだ内容を活かしながら様々な業務に挑戦していきたいです。

海外派遣研修が引き出してくれた、国際機関で働きたいという想い。

CASE02 短期海外派遣研修制度を活用

原子力規制委員会には様々な研修制度が用意されています。その中で私は、短期海外派遣研修に参加しました。研修内容は、2週間米国ワシントンDCに滞在し、ビジネスコミュニケーションや米国の原子力規制システムについて英語で学ぶというものです。これまでプライベートで英語を話すことや海外へ行くことに対して抵抗がなかったものの、入庁以来ビジネスで海外に行くことがなく、「海外のビジネスの現場を経験したい!」と思いこの研修を活用しました。

研修中はすべて英語、それも原子力という専門的な分野ですので、同時に理解するのはなかなか大変でした。しかし、この研修を通じて様々な視点で原子力規制について考えられるようになったことや、ビジネスコミュニケーションの難しさや面白さを実感することができたのは、大きな成果です。休日にはニューヨークにも行きました。電車が大幅に遅れるなどのハプニングも少々ありましたが、これもまたひとつのよい経験になったと思います。今回の研修は今後のキャリアを考える上で大変有意義なものでした。これまでは海外勤務に不安を感じていましたが、英語で海外の方と議論することの楽しさを改めて実感し、将来国際機関で活躍できる職員になりたいと思いました。今回の経験を無駄にせず、日々の英語学習に励みたいと思っています。



高木 春菜

一般職(大卒・行政) 令和3年度入庁 長官官房 委員会運営支援室
国際学部 国際学科

令和3年に入庁後、人事課に所属し、課の窓口業務に従事。令和4年から現職。

ワークライフバランスを大切に

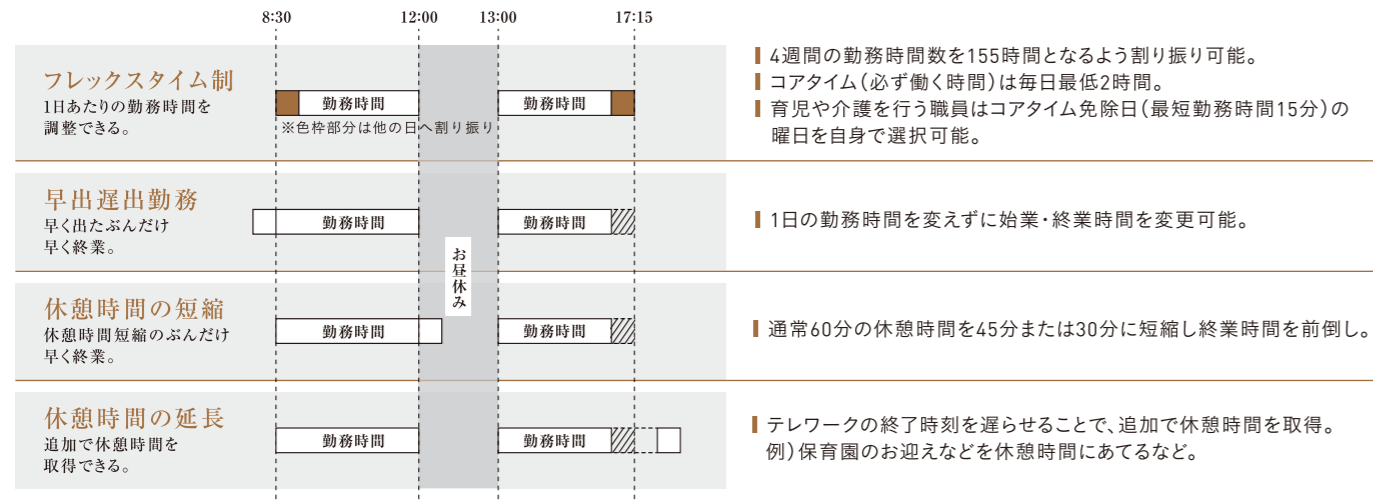
出産・育児を支援する制度

女性の場合は出産予定日前6週間からの産前休暇、出産日後8週間の産後休暇、妊娠期間中の定期検診のためなどに活用できる休暇を用意しています。男性の場合は妻の出産に合わせて取得できる配偶者出産休暇や育児参加のための休暇を取得することが可能です。

また、夫婦ともに子が3歳に達する日まで、任意の期間で育児休業を原則2回まで取得できます。さらに男性の場合には育児休業に加えて出生日から57日以内に産後パパ育児を2回まで取得可能です。安心して出産・子育てをするための制度が整っています。

	出生日	出生から57日	子が3歳に達する日
女性	産前休暇等	産後休暇	育児休業
男性	育児参加のための休暇 配偶者出産休暇	育児参加のための休暇 産後パパ育児	育児休業

勤務時間を変更する制度



様々な休暇制度

年次休暇 年間20日まで*1	結婚休暇 結婚の5日前から1月後までに5日	忌引休暇 親族に応じて連続する日数(父母の場合は7日)
夏季休暇 7月から9月まで*2に連続して3日	子の看護休暇 未就学児1人につき5日(最大10日)	介護休暇 要介護者の介護が必要な期間において通算6月まで(3回まで分割可)

※1 残日数は20日を限度として翌年に繰越し可能。 ※2 業務の繁忙期に重なるなどの事情が認められる場合には6月から10月までに拡大。

Topics

令和5年4月にフレックスタイム制及び休憩時間制度が改正され、従来の制度と比較し、柔軟化されました。

- 従来は最短で1日あたり6時間勤務する必要がありましたが、最短勤務時間数が2時間に変更となり、柔軟に勤務時間の設定をすることができます。
 - 従来は2週間前までにフレックスタイム制の申請をする必要がありましたが、申請の期限が2日前までとなり、より柔軟に自身の勤務時間を設定することができます。
 - フレキシブルタイム(勤務の割り振りが可能な時間)が従来の7時～22時から5時～22時に延長され、早く勤務を開始し、早く終業することが可能になりました。
- このように様々な制度で、ワークライフバランスを支援しています。



制度活用者の声。 公私の充実が仕事へのモチベーションに。



佐藤 雄一

II種(土木) 平成16年度経済産業省入省
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室 上席特殊施設分析官
理工学部 土木工学科
経済産業省入省のち、平成24年の原子力規制庁発足時に同庁に異動。原子力発電所の検査業務に従事する。平成25年、平成28年に育児休業を取得。その間、異動を経て、平成31年に約1年間の国内留学(専門職大学院)を経験した。復帰後、現職に就き令和3年に3度目の育児休業を取得した。

3度の育休取得も受け入れてくれる “懐の広い”職場環境。

CASE 01

現在は2011年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故の際に、原子力発電所内で生じた様々な事象がどのような原因で、どのような過程により生じたのかを推定するための調査・分析に関する業務を担当しています。

私の家族構成は妻と子供3人で、それぞれの子供に対して育児休業を取得しました。最初の育児休業は、長女が生後8ヶ月頃に約4週間取得しましたが、この時は、あっという間に育児休業が終わってしまった印象があったため、2回目の育児休業は、長男が生後6ヶ月頃から約9ヶ月間取得しました。3回目の育児休業は次女が生後9ヶ月の頃に、長女の夏休み時期に合わせて約4週間取得しました。3回の育児休業とも、当時所属していた部署の上司や同僚に話をしたその場で了承していただき、原子力規制庁は育児休業に大変理解がある職場であることを実感しました。育児休業終了後は上司に業務量の調整をしてもらうなどして、しばらくは残業を控えることができたので、引き続き日々の育児に関わることができました。現在在宅勤務などを活用しながら、仕事と家庭の両立を図っています。育児休業を取得したことにより育児の大変さを実感することができ、仕事と家庭にバランスよく対応することの大切さを学ぶことができました。

育児・介護制度を学ぶ研修を全職員に。 だからこそ誰もが理解してくれる。

CASE 02

原子力施設の安全の確保には、設備や機器の設計・施工・運転・保守などを行う人や組織が重要です。私は人や組織の特性に関する安全研究(ヒューマンファクター、安全文化、原因分析など)を実施し、検査ガイドなどへ知見の反映を行っています。また、海外の専門家同士の意見交換や国際会議の基準策定にも積極的に参加し、専門家として検査などの現場に同行して検査ツールの開発をするといったことにも携わっています。

私の家族は主人ともうすぐ5歳になる娘の3人家族。0歳の仕事復帰から子供が1歳になるまでは育児短時間制度などを利用し、段階的にフルタイム勤務に戻すことができました。原子力規制委員会は育児や介護の制度について全職員が毎年研修を受講していることもあり、上司からの理解は得られやすいです。私生活での様々な懸念もなく、ワークライフバランスの観点からも柔軟に働ける環境だと思います。最近は遊園地で思いっきり遊んだり初めて家族で海外旅行をしたりと、仕事と家庭の両立を楽しんでいます。大変なのは長期出張時の娘のケア。とはいえ最近では主人も娘も慣れてきたようで、ふたり時間を楽しんでいるようです。



高田 博子

選考採用(原子力安全基盤機構採用)
技術基盤グループ シビアアクシデント研究部門 副主任技術研究調査官
数理工学研究所 物理学科(修士)
平成26年入庁(原子力安全基盤機構より転籍)後、技術基盤グループシステム安全研究部門に所属。ヒューマンファクターに関する安全研究の仕事に従事する。平成30年9月から半年間、産前・産後休暇や育児休業を取得。復帰後、約5ヶ月間、育児短時間制度を利用しながら休暇取得前と同じ業務を継続する。令和4年4月より現職。

職員のとある一日

9:30

スケジュールの確認、打合せの参加など

当日も含めて直近のスケジュールを確認します。また、月曜日と水曜日には所属部署またはチームの定例打合せに参加します。



10:00

10:30

ヒアリングの事前準備

翌日以降に実施する事業者へのヒアリングの資料を読み込みます。生じた疑問点は、ヒアリングの場で事業者に質問し、説明の内容を確認します。

11:00

12:00

13:00

13:30

審査会合

事業者の説明内容が基準に適合しているか、説明内容に不足がないかなど事業者と議論を行います。審査会合はYouTubeにてリアルタイムで配信されています。



14:00

15:00

16:00

審査書などの作成・修正

審査終盤には、事業者の申請内容が規制基準に対して適合していると判断した審査の結果を文書にまとめます。



17:00

18:00

19:00

退庁

プロフィール

小野 幹

一般職(大卒・土木)
平成26年度入庁
原子力規制部 審査グループ
実用炉審査部門 安全審査官
理工学研究科 土木工学専攻(修士)

私の仕事はこんな仕事

事業者の申請内容が東京電力福島第一原子力発電所の事故後に作られた規制基準に適合しているかを審査しています。具体的には事業者とのヒアリングで、資料の内容を確認。審査会合という公開会議で事業者と議論をします。また審査結果を審査書として取りまとめる作業も業務のひとつです。

私のオフ

休日は家族と動物園。時には平日の夕方におでかけすることも。

2歳の娘がいるので、家族との時間を大切にしています。娘は動物が好きなので、動物公園や水族館によく出かけます。最近は見た動物の名前をすぐに覚えるので、びっくりすることが多いです。また、平日でもテレワークの勤務開始時刻を早くすることもできるので、そういった日の夕方は家族と出かけます。



原子力規制委員会の職員が、

実際にどんな風に働いているのか、実際の一日に密着してみました。

8:30

日常検査*の再確認および事務所内での情報共有

前日までに確認した事業者からの説明及び資料内容を再確認し、事務所内で共有。先輩検査官から過去事象や気づきポイントなどの知見を得る機会にしています。
*現地での地方事務所が日常的に実施している検査。



9:00

10:00

中央制御室などの巡視および日誌確認

原子力発電所の運転状況や当日の試験・工事予定などを当直課長から聞き取り、中央制御室を巡視。有意なトラブルなどが無かったかなど、日誌の精査を行います。



11:00

12:00

13:30

日常検査

発電所内において、事業者が発電所の機器が所定の性能を満たしているかを検査や点検で確認しており、事業者が定めた要領書や手順書に沿って適切に実施されているかなどを現地で確認します。

15:00

検査の振り返りと明日以降の検査の資料準備

日常検査で追加の確認が必要になった気づき・質問事項を取りまとめ精査した上で、明日以降の日常検査に向けて必要な情報を収集し、事前に事業者に質問するなど、検査に臨むための準備を行います。

16:00

17:00

17:15

退庁

プロフィール

芦田 裕介

一般職(大卒・電気 電子 情報) 平成26年度入庁
原子力規制部 実用炉監視部門
高浜原子力規制事務所 原子力運転検査官
工学研究科 総合電子工学専攻(修士)

私の仕事はこんな仕事

私は原子力発電所内で、施設・機器の状況や、事業者のトラブルへの対処、原因究明などが適切であるかの確認などを行っています。具体的にはトラブルが発生した機器が修理され、原因に応じた適切な再発防止対策が実行され、類似トラブルが発生しないかを確認しています。特に安全上重要な工事や点検状況については、重点的に現地確認を行っています。



私のオフ

休日はキャンプでリフレッシュ。平日もきれいな海を満喫しています。

異動先でできた友人(テニスや登山などの地元サークル活動での知り合い)と趣味のキャンプに行きます。また、おおむね勤務時間どおり仕事を終えて帰宅することができるため、平日の退勤後は自宅近くの美しい海岸で釣りや海水浴(シュノーケリング・SUPなど)を楽しんだりと有意義な日常を送っています。



NRA 新入職員対談

面倒見のいい職場だから 不安なく仕事を学べる。仕事を任される。

千葉: 今回の対談、面識のある人となない人がいますので、まずは簡単に自己紹介からしましょうか。私は技術基盤グループ地震・津波研究部門で、断層の活動性評価に関する研究をしています。今回のメンバーで唯一の研究職です。

有吉: 私は研究炉等審査部門で総括係員をしています。総括業務は内外からの様々な問い合わせや依頼に対して、部署の窓口となり必要に応じて部署内への情報周知や作業の割り振りを行うことが仕事です。

田村: 私は国際会議や諸外国との会談などの手はずを整える業務を行う国際室にいます。業務の一例を挙げると、国際会議の情報を集約して庁内に周知。参加者のための手続きをすることなども仕事のひとつです。

南: 私は総務課の総括係員として総合調整業務に従事しています。規制委員会の取りまとめ課として、他府省庁と規制委員会の各部署をつなぐ役割をしています。

有吉: 大まかには、千葉さん以外は内外の窓口となって調整をする、総括の仕事といった感じですね。

千葉: 原子力規制委員会の仕事って外からは分かりづらい印象を持たれることも多いかと思いますが、人に話す時、どんな風に伝えていますか？

南: 私はニュースに絡めて伝えますね。今年ならALPS処理水のニュースとか。

田村: 私もG7国際会議がありましたから、そこに関連させていますね。

有吉: そういえば入庁半年でG7に出席されたんですね？

田村: はい。発言こそしませんでしたが出席をさせてもらいました。私の場合、受け身で教わるより現場で学ぶという感じで仕事を覚えていっているのですが、G7出席もとにかく現場をという意味だったのかもしれない。ちなみに入庁後1ヶ月の全体研修後は先輩に付き仕事を覚えていきますが、最初の1週間はインプットが多く、とてつもなく大変でした。夢に出てきたほどです(笑)。今回のような大舞台への出席など、日頃から仕事を任せてもらっている実感はありますね。

南: 現場主義とはいっても、先輩はちゃんと教えてくださるんですね？俺の背中を見て覚えろとかではなく。

田村: もちろん。どんどん聞きますし、それに対し真摯に答えてくれます。新人だから聞くというより、年齢に関係なくみんな聞き合っている。官庁の仕事は短いスパンでの異動が多いので、ベテランでも新しい仕事のことは分からないですからね。話しやすい雰囲気は、みなさんの部署も同じじゃないですか？

有吉: そうですね。私は別の会社に勤めていたこともあるのですが、その時の職場は、上司に対してあまり話しかけやすい雰囲気ではありませんでした。ですが、規制委員会の上司の方は質問した時に、何か別の業務をしながら、手を止め聞く体勢を整えて質問に答えてくれます。それはすごく嬉しかったですね。

南: 確かに面倒見のいい職場だと感じます。分からないことについて身近な上司が相談に乗ってくれることは普通にあると思いますが、他の部署の人まで話を聞いてくれることもあるんです。入庁して最初は不安しかなかったのですが、すぐに払拭できて、いまは不安を抱え込まずに働くことができています。

自分の専門スキルが活かせる 責任のある仕事。それがやりがい。

田村: 千葉さんの場合、私たちと違う研究職ですが、どんな雰囲気ですか？

千葉: 職場の雰囲気としては3年とか5年とかの長期スパンの仕事が多いこともあってか、のんびりとしています。テレワーク率も高く残業も少ないです。

南: 休暇を取ったりテレワークがしやすいのはとてもいいですね。体調も維持しやすい。

千葉: はい、私もそう思います。研究職の場合、庁外の契約先とのやりとりが多く、庁内では研究のまとめ作業など1人で行う仕事が多いため、テレワークが多い印象です。様々な人と関わる機会があるので、コミュニケーション能力の重要性は同様に感じますね。自分の専門分野の研究成果を知らない人に発表する機会や議論も多いですし、他部署とのやりとりや行政文書を作成する際には必要性をとても感じます。私の現在の研究は、活断層と今後活動の可能性がない断層の比較やその識別方法。地震災害から原子力施設を守るために重要な研究です。私の場合は大学での研究内容に近い仕事できています。もちろん、入庁して同じ研究をできるとは限りませんが、学生時代の研究は、入庁後の仕事に何かしらつながっているの、学生のみなさんの誰もが活躍できる場はあると思います。

南: 確かに、仕事に対するやりがいや自分が活躍できている実感がないと、仕事を続けられないですね。私の仕事は規制委員会の取りまとめ役ですので、私の業務ラインで問題があると組織全体に影響します。だからこそ失敗のない正確な仕事を求められますが、それがやりがいでもあります。

原子力規制委員会 実際入ってどうだった？

田村: 入庁する前と入庁したあとで印象が違った点はありますか？

千葉: 私の場合、人間関係は研究職内での関わりだけかと思っていましたが、様々な同期と関わりができました。仲の良い職員とよくフットサルの練習をしています。

有吉: 入庁する前は公務員と聞くと堅苦しいイメージがありましたが、全然違いました。風通しがとてもいい。他部署の人と協力して困りごとを解決することもありますし、「最近入ってきた新入職員だよ」と他部署の方から声をかけてもらったこともありました。若い人を育てていこうという風土を感じます。

南: 同感です！入庁する前は粛々と仕事をこなしていくイメージでしたが、入ってみたら、全然違いました。

田村: 想像と違って堅くないという意見が多かったので、あえて逆の意見を(笑)。想像どおり堅かった点は、正確さや厳密さ、根拠を強く求められる点。文書を書く際には厳密性が重要ですし、上司に意見を求められ、それに私が回答すると上司は次に「なぜそう考えた？」と聞いてきます。たとえ私の考えがよいものでも、考えた理由を明確に説明できないと上司は残念がります。自らの言動や選択の根拠をしっかりと意識していつでも説明できるようにしておくことは、業務の根拠法令、根拠規程が定められている国家公務員に求められることなのだと知りました。一方でフレキシブルな点もありました。行政機関の仕事は型にはまってい「とりえず前例踏襲」のイメージもありますが、規制委員会には常によりよいものがないかと日々追求する姿勢があります。過去の完成形にとどまることなく、未完成でもよいから職員一人ひとりが刷新していく組織なのだと思います。



研究職
令和5年度入庁
技術基盤グループ 地震・津波研究部門
自然科学研究科 環境科学専攻
地球科学コース(修士)

千葉 響



一般職(大卒・化学)
令和5年度入庁
原子力規制部 審査グループ
研究炉等審査部門
理学系研究科 生物科学専攻(修士)

有吉 奈生



一般職(大卒・行政)
令和5年度入庁
長官官房 総務課 国際室
環境情報学府 自然環境専攻(修士)

田村 康晃



総合職(院卒・化学 生物 薬学)
令和5年度入庁
長官官房 総務課
薬学部 薬学科

南 明穂

数字で見る 原子力規制委員会

数字で見ると気づくことがある。
原子力規制委員会の気になるあれこれを
数字で表してみました。

全職員数

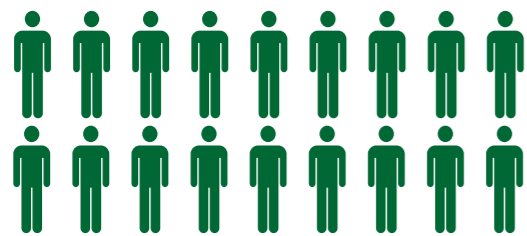
※令和5年度定員



1121名

新規入庁者数

※令和5年度



令和5年度 入庁

40名 うち女性 18名

障害者である職員の雇用率(法定雇用率)

※令和5年6月1日時点



3.51%

(国や地方公共団体等の令和5年度目標2.6%)



100%



100%

育児関係休暇取得率

※令和4年度

育児関係休暇

- 育児休業
- 配偶者出産休暇
- 育児のための休暇

夏季休暇取得率

※令和4年



99%

年間総超過勤務(残業)時間数

※令和4年



本庁平均

275.9時間/人

他本府省平均

397.3時間

平均年休取得日数

※令和4年



本庁平均

14日

他本府省平均13日

(令和6年3月1日現在)



- 原子力規制事務所・分室**
 - 原子力施設近傍に常駐し、原子力規制検査や原子力防災のための取組を実施
 - 環境放射線モニタリングについて関係機関との連携・調整を実施
- 地域原子力規制総括調整官事務所**
 - 県庁などに駐在し、関係機関との連携・調整を実施
- 原子力艦モニタリングセンター**
 - 国内に寄港する原子力艦に関する環境放射線モニタリングを実施
- 六ヶ所保障措置センター**
 - 再処理施設等に対する査察などを実施
- 原子力安全研修所**
 - 検査装置の模擬設備を用いた研修を実施



高浜原子力規制事務所



海外派遣先一覧

- アメリカ**
 - ワシントンD.C. 米国原子力規制委員会 (NRC) / 在アメリカ合衆国日本国大使館
 - ヨーロッパ**
 - リバプール 英国原子力規制局 (ONR)
 - ロンドン 在英国日本国大使館
 - ウィーン 国際原子力機関 (IAEA) / 在ウィーン国際機関日本政府代表部
 - パリ 経済協力開発機構 / 原子力機関 (OECD/NEA) / 在フランス日本国大使館
- ※令和5年度実績



原子力安全研修所

	主な業務	受験区分	採用後の処遇
総合職 (技術系)	企画立案・調整 ■法令や規則の改正、訴訟対応 ■国会への対応や答弁作成 ■予算・機構定員要求など	人事院試験 ■院卒者試験(技術系全区分) ■大卒程度試験(技術系全区分)	■[院卒者試験] 修士卒:277,720円 ※行政(一)2級11号俸の場合 ■[大卒程度試験] 学士卒:249,640円 ※行政(一)2級1号俸の場合
一般職 (技術系)	原子力施設の審査・検査、放射線防護、原子力防災など ■原子力発電所の審査・検査 ■放射線利用施設の審査・検査 ■緊急事態への対応など	人事院試験 ■大卒程度試験(技術系全区分) ■高卒者試験(技術) 原子力規制庁独自採用試験 ■原子力工学系職員採用試験	■修士卒:256,800円 ※行政(一)1級33号俸の場合 ■学士卒:242,640円 ※行政(一)1級25号俸の場合 ※高等専門学校・短期大学を卒業し一般職大卒程度試験に合格した者もこれと同程度の俸給月額となります。
一般職 (事務系)	パックオフィス業務 ■人事、会計、法務 ■広報、国際、情報公開 ■情報システム、文書管理など	人事院試験 ■大卒程度試験(行政) ■高卒者試験(事務)	■高卒者:207,120円 ※行政(一)1級5号俸の場合
研究職	安全研究・調査研究 ■最新知見のための安全研究 ■機器、設備の安全性に係る解析・評価など	原子力規制庁独自採用試験 ■研究職採用試験	■博士卒:326,800円 ※研究2級25号俸の場合 ■修士卒:292,840円 ※研究2級13号俸の場合

※主な職種毎の業務例を示しており、他の業務に従事することや、本人の適性を踏まえた職種の枠にとられない人員配置もあります。
 ※「一般職の職員の給与に関する法律」の規定によるもので、令和5年4月1日の給与の例です。学歴や職歴によって異なる場合があります。
 ※本府省に勤務する場合の俸給、本府省業務調整手当、地域手当の合計の金額となります。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度(予定者)
総合職 (技術系)	2	2(1)	5(2)	2(1)
一般職 (技術系)	大卒程度 6(4) 原子力工学系 1 高卒者 1	大卒程度 6(2) 原子力工学系 1 高卒者 0	大卒程度 11(3) 原子力工学系 2(1) 高卒者 2(1)	大卒程度 10(4) 原子力工学系 2 高卒者 0
一般職 (事務系)	大卒程度 7(2) 高卒者 7(2)	大卒程度 5(2) 高卒者 9(3)	大卒程度 7(5) 高卒者 10(6)	大卒程度 8(1) 高卒者 13(5)
研究職	5(2)	3(1)	3	3(1)

※単位:人、カッコ内は、うち女性数 ※令和6年度より総合職は技術系のみ採用

各職種の採用スケジュールについてはホームページを参照してください。

Message

規制を通じて、人と環境を守る

原子力規制委員会は、東京電力福島第一原子力発電所事故の教訓に学び設置されました。それから12年経ちましたが、職員は常に初心に立ち返り、国内外からさらに信頼される規制機関となれるように努力しています。我々は、あのような事故を二度と起こさないために、常に「原子力に100パーセントの安全はない」ということを肝に銘じながら、原子力規制のさらなる高みを目指し、変化を恐れることなく改善を続けています。そのために「現場重視の姿勢」「過去の事故や新しい知見の調査分析」、そして「十分な対話」を大切にしています。また、そうした中で、職員の能力向上や育成も大変重要であり、これに注力し、将来の原子力規制を担う若い人たちにとって魅力となる組織づくりにも努めています。私たちが担う原子力の安全規制の使命は極めて重いものであり、職員は「高い士気」と「責任感」を持って日々業務を遂行しています。ぜひ一緒に「確かな規制を通じて人と環境を守る」ことを実現していきましょう。

委員長 山中 伸介

